

# 講義 宗旨 書

昭和46年度學苑会(緊急)臨時學生大會

## 学費値上げ実力阻止。 二部改廃阻止。

とき 12月15日午後6時  
ところ 記念館

學苑会中央執行委員会  
委員長 木田 修



は  
め  
に  
思考とは、かれらり身體がじかに感ずるもの  
の——  
思惑とは、激しい情動そのもの——  
理想とは、湧き出する汗のなかにある  
もの——  
人間は、かれの星身のことごとくが、  
現實との激しい摩擦によつて火の玉の  
如きものとびつたとき、直感的な生詠  
の流動による、激動する血の内面感覺  
以外のものは、これすべて嘗喰え／ヒ  
なり終る。——  
かれうはゼロから出発する——  
かれうは一切の伝統的思考を屏ため——

ゼロはゼロであるとき、それは同時に  
あらゆる可能性さもあるのだ——  
革観がすべての人間をゼロにしたとき、  
かれらもまだゼロの二重したゼロで  
にかわる——  
さればゼロの積極的肯定である——  
否定はこの革観をモメントにして肯定  
にかわる——  
敢ケデウゼロ以上であるとき、革観を  
廃して、ゼロは無限大を意味するゼ  
ロに変化した——  
ゼロは無限大の面積であり——  
ゼロは無限大の面積であった——  
(褪色より)

常識値上行 第四回 殺戮実力競争

しかし、それが大企業、独占企業の政策として、中止しておいた業のやつでござる。

17

現地で、三井物語の学習院大、日大、専大を競  
争として、11月4日迄に値上げを発表した和  
洋人は87社にも及び、11月15日の早大の発表に

より、百枚近くの大蔵で値上げが行なわれる。たゞ学年両端の方針性は、一つには技術開拓者としての自己技術を支える内容としての教育の再構築した。

た方針再編の方向性は、一つには技術開発自己技術主導による内容としての教育の再編があり、変更には産業の要請のみならぬ高級工中級技術者の大量養成であり、その事に規定

加盟大學由江大等へ青學、早大等)が、来る  
から賃業料や入學金、學費料の値上げを正す。  
に決の、さうに江大等へ明大、法大等)が値  
上げを検討していることが各大學の報告から  
りかた。  
2) 勵と道上への背景  
された総合大學化マスクロ化である。  
高校成長政策によ、た業行員の転換——  
本、技術に造られた企業相違へ——日本、  
者への影響をいたした。そして、所傳信號——

福祉施設をアドバルーンとした。心なしから、それは大企業・独立企業等、

日本の中小企業のモード化について

したしながら、それは大企業・独立企業、政策の中心となり、中小企業の生き残りが危

又、物価が賃金上昇に追いつけず、眞妙な  
行されたのである。

人民からの吸収が行なわれてゐる。

た再編とマスク化が、膨大な説得力を持った。

ヒを必要とした。一高度成長政策の下、人民收奪村造の一方の貧として、支那へ

少々の負担は覚悟してもいいやうだ。筆者

「一生うだつが上らない」と状況ができた

てゐる。

「財政危機」と、

日本政府は、單に大學教育の計画ならず、幼稚期から高等教育を含めた、教育の確立までの全編を貫徹せんとしている。保育所と幼稚園の合併を通じての「賃貸した幼稚期蒙養教育」から出発して、幼稚期からの早期能力開発を基準にして、初等中等教育からの選別教育の強化と高等教育の徹底専門化と生涯教育による「合理化」により排出された骨盆した専能力商品の再生したことと、一生涯を費した競争につづく競争の完成が並行して進行している（ニコラ・自討証明書参照）。

（ア）これまでの日本大學生中心の「教育」ではなく、「私學振興試験局」の設置などによって私情にも拘らんつた。

即ち、教育總体を「國家＝市民社会」の権利の中に包含するもうとするのである。

「中教育審議会」の中で「大學を『表現』から『偏離』しないで社会と緊密に結びつきし『社会的得割』」を果すべきであるとの位置付け、教育の目標を「एक社会に貢献する人づくり」としての「一般教養を修得せざるAコース」と「職業教育のBコース」とに分ける。

③（ア）三種大学（高専）——現在の高等に相当する五年間の職業教育実験

（イ）四種大学（大学院）

（ロ）五種大学（研究科）

（ハ）このように、目的別に大学制度を再編していく。

これは何を意味するか。高専に発展していこうための、「資金調達」——人財の奪い合いではない。

このゞづな目的別大略化が構想されている。  
そして、そういう中で私たゞもテロハ枚交  
可付でいる。先に述べた私密振興隊団ノ帝  
國主義アルゾワガーナーの尖兵の役割を果して  
いる。——資産面々タマ——「至善貢助隊ア  
祐事項」等に於く、「自活活動」「組合運  
動」の彈圧、規制と人民收奪の拡大を要す。  
「私密は規制、統制して、大學」「改革」し再  
編を促進しなつとしている。そして、教育内  
容も「期待される人間像にふさわしい」人  
にして育てるためのものへと再編されんとして  
いる。

これほどこの教育政策は「社会」の要請に応  
えるのに不思ひ得ないはタマ、矛盾そのもの  
を產出し畜積されて、六八年（一九六八年）に再開四十  
争が起つたことを、「總括」する中々ら  
現在の中教審議会が出てきたことのみなら  
いればならぬ。

またそれは、現在の中編、三里塙をみれば  
見るるに、ありとあらゆる原野、頃城との  
我々に対する努力次第でつづれでいる。そして  
民への頑固な侵蝕及革新的目的とした所の原  
口主義的再編が不可避られることにならぬ  
ふえなければならぬ。

しかも、先頭提出された「臺灣改華委員会」  
（置鮑宏委員長）の答申に於くは、昭和四  
十五年度末の東京借入金・負債は約三十一  
億円であることを強調している。そして、今  
の見通せば、「昭和四十六年度予算につ  
て、口座賄助成金が三億円交付されたことじても  
約二億五千万円の不足（赤字）を招来し、そ  
の額は逐年増加、累積することが予想され  
て」と、又「約二十一億円の借入金を生じ  
た」と

この結果、その利潤が非常に手高潔一億一千五百万を以て、建物改修等に年間約一億三千万円を必要としており、その額は今後漸増するのである。——自転車操業的不健全政策に到達せしむる「ど、つとめて財政の不足へ赤字」も強調している。

要がわいのいじめにあたる政治家は、これに説教されたりして、これ

(5)

要求するに、この政策がついに墮落してゐて、奪取が可能であると「分析」したが故にである。④ 日本の民衆は、既の大財團専門の根本解決」として、大勢の非民主的・階級主導的で、行方不明の千人ともいわれてゐる大奸臣である。

この結果、その利息を払うに専用約一億六千、いわゆる「支那政策」があつて政府、自民党、内閣を要し、建物改修に毎年約一億三千万円を必要としており、その額は今后漸増する。一自転車操業の个建全般政に到達のう。会員等の原則をより層乱暴に破壊する。二にまわる巴と、お貴士争ひ「反日派に以て

要求するに、この段階では、監視しておきて、奪取が可能であると「分析」した後であります。  
④ 日共は民青は「既大の財政専門の根本解決」として「大綱」の非民主的・階級主導的で、行方不明者一千人ともいわれてゐる大奸臣である。

(4) 日共＝民青の日雇補助要求粉碎の

日共は民衆の活動した手によって書かれたのである。  
当面する我々の課題ところ針く窓へ廻してはるものの  
の由で、彼らは「ひもつつなない大巾はる口座  
販成要求」をこゝにいる。しかし、その「方  
針」は、明す當局と一体となつた形で行なめ  
られてゐることをさうめどらなければならぬ  
い。当面は、「赤字財政」の現状ある予想と  
して「口座補助焼額」があるのでしつゝ、現在  
的には微少であり、仕方なく「焼く値上げ」  
あるところ。  
終顧的には、彼等は大嘗當局より財政の未  
きの説明をうけた時には承認するしかないので  
ある。  
◎ 値上げを「教育の社会指導の原則」とよ  
り一層乱暴に破壊するものとして、その運  
営と課題としている。このような主張は、全  
て完全に超前の物なるもの——一段前革命並  
のやあり——として美化してしまつて居る。

日共は民責は次のようにして主張している。  
争い値上げの根源は、政府・文部省の負担

③ 一學生、教職員と「親」にしてゐる「意下達上」であるから反対して半蔵の「道」を要求し、そこで「至要の全面公開」



商部の設置をもつての三部教育と相に切り替わるのである。そこで「財政」的觀点からみた「教育」と把える「教育看」の理論からは当然のこととしてこれららの敗局的「改革」しがでてくるのであり、「三部改廃」がすすむやうである。

すべての学友諸君

である。すべて「財政」的觀點からみた「教育」と把える「教育看」の理念からは当然のこととしてこれららの敗局的「改革」がでてくるのであり、「二部改廃」がすむれられるのである。

我々のたにかいの弊疣は他ならぬ「教育帝曰主義的再編」中教監督申のに向ひなくはならぬにもかかわらず、曰共・民青諸君が全く全てを「曰庫補助費」、乞巧なうごく大字書にて解消し、本題をかくすことに奔するに至つては嘆止千刀である。

學に植上げ更兎相手に、二郎改廢阻止斗争は  
さしくこのような權力＝大學當局のダメハ  
管理支配を反映せんとする、そうした斗争  
突破口としなければならぬ。學に植上げ  
明確に權力＝アルジョアンジーのなし進む  
中教廢除すなむち教育の帝曰主義的再構  
成しすするめる過程に派生した「財政＝向學  
税制改するのであり、われわれはつづりと  
教會管申條款＝教育の帝曰主義的再編務  
斗争を活発化して、勝ちとうが  
ればならない。

[3] 学費値上げ実力阻止、二部改廢阻止に向けたオペラのクラス・サークルでスト・  
権の確立を。

我々は、現実的に「財政」が理事會の「権限」でありかつ「値上げ」を検討しているところから、12月17日の対理事會・連合教職會議で玄を要求した。これはアル新幹線に設じられた「値上げ」の動きを窺つ、我々に一切を隠蔽したまゝではすすめぬ当局の本質と暴露せんがために設定したのだ。本稿裏裏に恐怖した当局は「案のじよう」を受けられながら、と回答してきた。彼らは「暴力はいけない」と語りあいましょうと甘い言葉を口にしつつも、いわゆる「話しあい」には何も知らぬふりのできる「学生部」程度までしか庭ぜず、本質的には「何も云わない」とことを基本とし、それよりだ。そこまで我々をひたすらなだめたりまして抱き込むとする。

これに対して一言いっておこう。我々の暴力は、そういったあなたのかたの本質としての暴力（権力）を最終的に無くすための暴力（暴力）なのだ。

田文は一般的に暴力を意味しない。象徴的ななかで用いられるからだ。敵対者（人民と支配者）が対等でないときのわれわれ人民の表現形態にすぎない——（東大解放講堂の落書きより）

日本共同声明粉碎  
1936年津輕「返還」粉碎  
「返還」制定此淮定力阻止  
92年自衛隊沖繩派兵更力阻止  
三里原空港粉碎、一月收回  
八管法、八管体制粉碎  
破防法体制粉碎  
保守如分立制法改憲粉碎